

(別紙様式 = 小学校用)

都道府県番号	34
都道府県名	広島

【 】

*重点をおいた観点にチェックすること

学校名及び規模

学校名	三原市立須波小学校							
学年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	計	教員数
学級数	1	1	1	1	1	1	6	12
児童数	20	30	24	33	29	29	165	

研究の概要

(1) 研究主題

確かな学力を育てる授業
- 習熟度別学習の工夫と教材開発を通して -

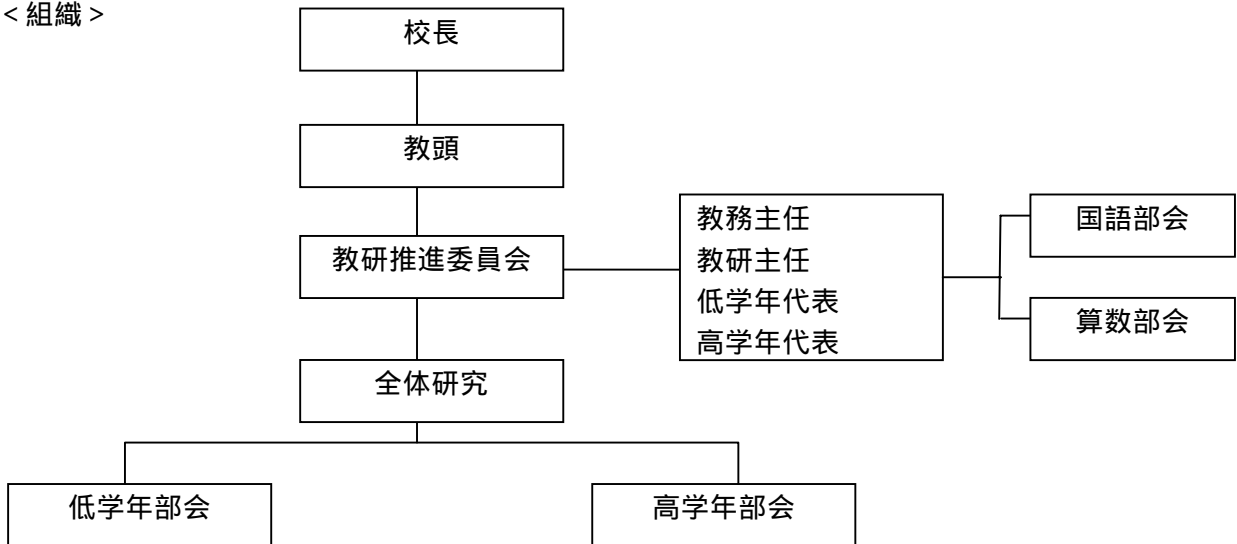
(2) 研究主題の趣旨

本校は、平成12年度よりTTを生かして、児童の興味・関心によるコース別学習に取り組んできた。また、基礎的計算の向上にも力を入れ効果を上げてきた。しかし、その過程で学習のスピード、習熟の程度に個人差があり、その克服が課題となった。そこで、平成14年度より一人一人に確かな学力を身につけさせる学習方法の工夫の一つとして習熟度別学習に着目し、一人一人に「わかった」という実感をもたせ、学習への意欲や態度を育てながら学ばせていこうと取り組みを開始した。

研究の概要

(1) 研究推進体制の工夫








<組織>



3年次は、論理的思考力等の基礎となる国語力を培っていく必要性も見えてきているので、国語科の指導と改善をしていく面においても教研推進委員会を国語部会・算数部会に分けて研究を深める。

(2) 研究の実際

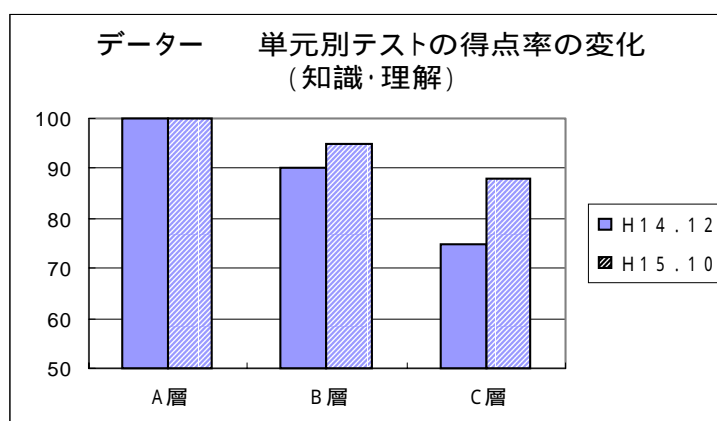
習熟に応じた教材づくり
<第6学年の事例より>

学習形態	基礎コース（13人） （習熟度別少人数制）	発展コース（16人） （習熟度別少人数制）
学習のめあて	複合立体の体積をいろいろな方法で求めよう。	複合立体の体積をよりよい方法で求めよう。
問題提示	立方体・L字型立体を提示し、体積をいろいろな方法で求めていく。 	凹型・凸型の立体を提示して、自分で選び、いろいろな方法を考え、グループ討議をしてよりよい方法を導きだす。 
支援	実物の立体模型を使い、分割・仮定の操作ができるようにする。 立方体との比較により、既習の学習が使えるようにする。 友達同士（2人組）で説明する活動を取り入れ理解が深まるようにする。 	ヒントコーナーを設け、4年で学習したL字型面積の求め方の方法を提示する。  多様な方法で求めてよりよい方法で求める。 実物の立体模型を使い、分割・仮定の操作ができるようにする。（オアシス） グループごとに説明する活動を取り入れ、お互いの考えを学ぶ合う。  
適用題	凹型・凸型の体積の求め方を考える。 	凹型・F字型の立体の体積をよりよい方法で求める。 

（3）研究の成果と課題

データー は、習熟度に応じた教材を工夫することにより図形や数量における知識・理解がどのようになったかを調査した結果である。

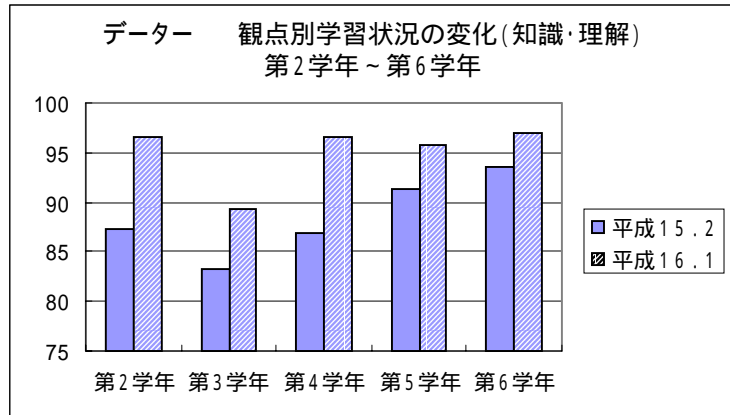
A層の児童は、昨年度12月に行った単元テストと今回のテストでは、100%の得点率で変わりなかったが、B層の児童は、90%から95%に向上し、C層の児童は、75%から85%に得点率が向上している。



データ は、全校児童を対象に昨年度(平成15年2月)に行った教研式C R T観点別学習状況と今年度(平成16年1月)に行った教研式C R T観点別学習状況での知識・理解の変化の結果である。

データが示す通りどの学年も向上しており、4つの学年で得点率が95%を超えている。

以上のことから、習熟に応じた教材づくりや教具の工夫を行うことにより、図形や数量についての知識・理解が高まったととらえている。

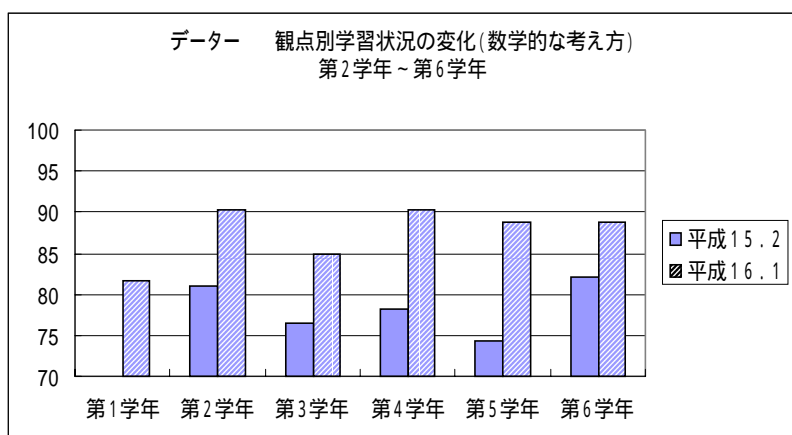


< 成果 >

習熟度に応じた教材づくりや教具の工夫を行うことにより、数量・図形についての知識・理解が高まった。

データ は、全校児童を対象に平成15年2月に行った「教研式C R T観点別学習状況」と平成16年1月に行った「教研式C R T観点別学習状況」の「数学的な考え方」の変容の結果である。この結果から、「数学的な考え方」は昨年度よりは向上している。

しかし「知識・理解」「表現・処理」の項目と比較すると、低い状態にある。また90%に達していない学年が3学年もある。3年次は問題解決を楽しみ、間違ってもあきらめず取り組む中で、思考力を高めていく方向をさぐりたい。そこで、算数的活動をどの場面で、どのような活動を何によって取り入れていくのかを授業形態との関連の中で深めていく。



< 課題 >

「確かな学力」(学んだ力・学ぶ力・学ぼうとする力)を位置づけ、特に「学ぼうとする力」(意欲・関心・態度)とそのための支援のあり方を探る。

授業形態の工夫(どの場面でどの形態を取り入れるか)

算数的活動の工夫(どの場面でどのような活動を取り入れるか)

(4) 研究成果の普及の方策

開催実績

第22回 公開研究会

【日時】平成15年10月9日(木)

【場所】三原市立須波小学校

【対象】教職員・保護者・地域

【目的】学力向上に向けた教職員の授業力を高め、研究を他校に普及していくため。

開催予定

第23回 公開研究会

【日時】平成16年 9月30日(木)

【場所】三原市立須波小学校

【対象】教職員・保護者・地域

【目的】学力向上に向けた教職員の授業力を高め、研究を他校に普及していくため。

研究成果普及の実績

- ・HPにフロンティア情報を掲載している。
- ・平成15年度 本校視察を受けることによる研究内容の普及をした。
- ・初任者研修(県立高校・中学校)の本校訪問による普及を行った。
- ・全教科の単元ごとの判断基準表作成終了
- ・算数科における一時間ごとの判断基準作成中
- ・本年度研究実践のまとめ作成による改善
- ・HPのフロンティア情報の更新

【新規校・継続校】	15年度からの新規校	<input checked="" type="checkbox"/> 14年度からの継続校		
【学校規模】	<input checked="" type="checkbox"/> 6学級以下 13～18学級 25学級以上	7～12学級 19～24学級		
【指導体制】	<input checked="" type="checkbox"/> 少人数指導 一部教科担任制	<input checked="" type="checkbox"/> T・Tによる指導 その他		
【研究教科】	国語 生活 体育	社会 音楽 その他	<input checked="" type="checkbox"/> 算数 図画工作	理科 家庭
【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】	<input checked="" type="checkbox"/> 有	無		

【特色ある取組み事例としての紹介したいポイント】

習熟に応じた教材の工夫により、数量・図形についての知識・理解が高まったこと。